

維持管理時代への貢献

JERコンクリート補改修協会会長

佐藤 匡良



令和元年度末の全国下水道処理人口普及率は平均で79.7%（汚水処理人口普及率は91.7%）に達し、下水道関連施設である処理場数は約2200カ所、管路延長は約48万km、マンホール数は約1300万基など膨大なストックを抱えております。昨今では、管路施設の老朽化等に起因した道路陥没が多く発生しており、平成30年度には約3100件にも及んでいます。

当協会では、硫酸等に起因する下水道関連のコンクリート構造物内面の腐食劣化対策として、耐用年数50年を跨るライフサイクルコスト型「ジックボード工法」をはじめ、耐硫酸性を有するモルタルライニング工法、各種塗布型ライニング工法に至るまで、協会認定工法としてラインナップの充実を図り、施設の劣化要因の診断から適材適所の防食仕様のご提案、当協会員による防食工事および品質管理まで、下水道関連施設の長寿命化対策に取り組む専門技術者集団として活動しています。

また分科会として管路部会を設け、マンホールや管路・管きよの維持管理にも貢献すべく、活動も行なっております。中でも、管路部会では自立マンホール管更生工法の「ジックボードJ工法」をラインナップに加え、建設技術審査証明を取得しています。下水道関連施設の維持管理を適切に行い、施設の長寿命化を図るため、定期点検・調査・診断結果に基づく計画的な改修・更新が必要になることから、定期点検や調査等に関する予算確保の配慮を期待します。